

令和6年度
事業報告書

公益財団法人防府市文化振興財団

I 事業総括

防府市文化振興財団は、真に豊かさの実感できる地域社会の形成と進展に寄与することを目的として、「豊かな心の育みと文化の薫りにあふれるまちづくり」を推進する防府市における文化活動の一層の活性化を図り、市民のニーズに応える多様な事業を展開しています。

令和6年度は、第4期指定管理の4年目を迎え、防府市公会堂、防府市地域交流センター、防府市青少年科学館、防府市視聴覚ライブラリー及び防府市立防府図書館の5施設の指定管理者として、安心安全を基本に、より利用しやすい施設運営に努めるとともに、それぞれの施設を拠点とした魅力あふれる多彩な事業を展開することで、文化が市民に生きる力を育み、街の活力の源となるよう取り組んでまいりました。

II 事業概要

公益財団法人として定款の目的にかなった事業を展開するとともに、「輝き!ほうふプラン」に沿った文化・芸術活動の推進、並びに図書館運営事業による生涯学習を推進し、それぞれの施設の特徴を活かしながら連携して適正な運営に取り組みました。

また、収益事業については、公益目的事業の一層の充実を図るための財源確保や、利用者のサービス向上につながるよう、収入の確保に努めました。

1 文化の創造・発信及び文化活動の支援事業

(1) 音楽鑑賞事業（資料1頁～2頁参照）

本年度は、クラシック、ポップス、舞踊等の各種事業11事業19公演を開催し、合計で約7,600人の方にご参加いただきました。

① クラシック

ア 主催事業

a 防府音楽祭

第24回目を迎えた防府音楽祭は街の活性化を図るとともにクラシック音楽をより多くの市民に親しんでいただけるよう入場無料、有料公演を含め多彩なメニューで1月10日から4日間連続して開催し約1,850人もの方に音楽を楽しんでいただくことができました。

初日の街角コンサートは、「防府市新庁舎」や「周防国分寺」など市内5カ所で開催し、合計約560人の方に無料で音楽を楽しんでいただきました。

2日目に開催した入場無料の「プロムナードコンサート」は、観覧の希望が多

く入場整理券が抽選となるほどで、500人以上の方に和と洋のコラボレーションの演奏を堪能していただくことが出来ました。

また、防府音楽祭出演のゲスト演奏者による公開クリニックでは、フルート、オーボエ、打楽器などのクリニックを開講し69人の受講生がプロの演奏家から少人数で直接指導を受けるという貴重な体験をしてもらいました。

3日目の「わくわく夢の響演コンサート」では、ヴィヴァルディ協奏曲集「四季」の演奏と、防府アスピラート合唱団“Fanfare”が合唱ミュージカル「ピーターと狼」を披露し、最終日の「ファイナルコンサート」は、防府アスピラート合唱団によるフォーレの「ラシーヌ賛歌」とシューベルトの「羊飼いの合唱」、景山誠治氏によるブルッフのヴァイオリン協奏曲第1番、ラストは、防府音楽祭管弦楽団によるベートーヴェン交響曲第3番「英雄」の圧巻の演奏で幕を閉じました。

b JKA補助金事業 久石譲×日本センチュリー交響楽団 防府特別演奏会

昨年はバレエ&オーケストラ公演を開催し、2年連続でJKAの補助事業として採択され、指揮者久石譲と日本センチュリー交響楽団防府公演という大型企画を開催することができました。久石氏作曲の魔女の宅急便などの演奏で満席の会場は拍手喝采となりました。

イ 共催事業

a 小林愛実ピアノコンサート

公演前半はシューベルトの即興曲集、後半はシューマンの子どもの情景、ショパンのピアノソナタ第3番を披露し、その表現力の高さで来場者を魅了しました。

b 上妻宏光 宮田大 Duo Concert Tour 一月食一

津軽三味線とチェロのコラボレーションと音楽ホールの絶妙な響きが相まって来場された方はその音色に魅了されました。

c 田中彩子 ソプラノ～デビュー10周年記念リサイタル

ソプラノの中でも稀なハイコロラトゥーラである田中氏の美しい歌声がアスピラート音楽ホールに響き渡りました。世界中で活躍する田中氏ですが、日本ではコンサートのみならず、テレビ番組「情熱大陸」「嵐にしやがれ」をはじめとして数多くのメディアにも出演しており、歌声からは想像もできない声質による楽しいおしゃべりで来場された方を楽しませました。

② ポップス等

ア 主催事業

a 世良公則 KNOCK KNOCK 2025 with 宇崎竜童

全国各地からファンが詰めかけ、来場者は年齢を感じさせないふたりのパワーに驚嘆と感動を感じられ、終演後は多くの方から再訪の要望をいただきました。

イ 共催事業

a はやしべさとし三十歳の旅立ち～叙情歌を道づれに～防府編

心にしみる歌声と懐かしい叙情歌の楽曲で来場者を魅了しました。

b 梅垣義明 with 杉浦哲郎 2人のセゾン～saison pour deux～

ワハハ本舗の梅垣義明と杉浦哲郎によるコンサートで、舞台から客席に降りてのパフォーマンスは、演者と観客の距離感の全くない楽しいコンサートとなりました。

c 竹渕慶 47都道府県ツアー～そろソロ会いに行くよ～

ソロ活動5周年を記念した全国ツアーでその優れた歌唱力を披露しました。

d ブリヂストン吹奏楽団久留米コンサート

毎年人気の公演ですが、本公演のみならず、リハーサル風景や楽器紹介を地元の小さな子ども達に見せるなど、演奏技術だけでなく地域への貢献度も含めて、高く評価されています。

e 矢井田 瞳 弾き語りツアー ～GUITAR TO UTA 24-25～

デビューから25周年経過していても、懐かしく変わらない歌声に音楽ホールはまるでライブ会場のように演奏者と客席が一体総立ちとなり盛り上がりました。

(2) 音楽育成事業 (資料3頁参照)

幅広い層の市民に歌うこと、楽器を演奏することの醍醐味を堪能していただくことを目的とし年間を通して開催しました。

a こども合唱教室

ショッピングセンターでのコンサートを始めとして、市民音楽祭、福祉まつり、防府音楽祭では合唱ミュージカル「ピーターと狼」を披露するなど充実したカリキュラムとなりました。

b 弦楽合奏教室

中級・一般コースは市民音楽祭、定期演奏会に向け、プティアンサンブルコースはフェスタアスピラート出演に向け練習を重ねました。

c 吹奏楽教室

受講生も50人を超え、受講生から成る防府吹奏楽団は、夏の吹奏楽コンクールに出場し優秀な成績を収めるとともに、その成果を定期演奏会で披露しました。

d 合唱教室

ドイツ語とフランス語の曲に取り組み、特別講師による発音、合唱指導も受けるなどして防府音楽祭においてその練習の成果を披露しました。

e チェンバロ講座 触ってみよう！

こどもコースと大人コースには防府市内外の受講生22人が集まり、チェンバロの仕組みや歴史、演奏法を学びました。特に大人コースについては募集開始と同時に満員となったことから急遽追加講座を設けました。講座最終日にはとおきの一曲を披露し、音楽ホールで自ら演奏する楽しみを味わってもらいました。

(3) 音楽普及事業 (資料4頁参照)

市民に音楽に対する興味・関心を広げてもらうように各種音楽セミナーを開催しました。

ア 主催事業

a 音楽セミナー／田中雅弘の音楽旅日記XXII

「ホールが育む！文化の未来～三友サルビアホールとアスピラートの音響の素晴らしさ、徹底追究」

このセミナーは例年定着しており満員となりました。ベートーヴェンの「ユダマカベウス」の変奏曲などの演奏も交え、アスピラートと三友サルビアホールの音の響きの素晴らしさについて奏者の視点から語ってもらいました。

b 音楽セミナー/尺八を語る～尺八の魅力と可能性～

尺八奏者の重藤響山氏を講師に迎え、本曲・古曲・現代曲を三絃や箏のゲスト奏者と共に紹介しました。これに加えて打楽器との演奏も交え、ジャンルにとられない尺八の可能性についてお話を聞きました。

イ 共催事業

a 第2回防府音楽祭スプリングセミナー

田中雅弘氏率いる実行委員会主催のセミナーで、県内外から講師と受講生が集い、弦、木管、金管楽器やピアノなどのレッスンを行いました。合わせて台湾奏者との交流による公演やレッスン、市内の文化財施設での出張公演なども行い音楽のまちを盛り上げました。

(4) 美術鑑賞事業 (資料4頁～5頁参照)

本年度は、企画展や体験イベント等を5回開催し、2万8千人を超える方に参加していただきました。

ア 主催事業

a ミニチュアライフ展 2－田中達也 見立ての世界

国内外で人気のミニチュア写真家/見立て作家・田中達也のミニチュア立体作品や写真作品を新作を含め約170点展示しました。この作品はジオラマ用の人形と身近な日用品を組み合わせる別の物に見立てて小さな世界を表現するもので、老若男女すべての世代で楽しめる展覧会とあって想定を1万人を超える約2万5千人の来場者で賑わいました。

b やまぐち生まれの4人展

地元若手作家の支援として、山口県に生まれ、育ち、現在も県内で活躍している4名の作品を展示し、各作家の幼少期に描いた作品や当時を振り返るエピソードから新作や近作までを発表することによって過去から現在、そして未来へ続く歩みを感じられる企画展を開催し、来場された方からは大変な高評価をいただきました。

c アスピラートでクリスマス！2024／幸せますカメLOVE写真展

クリスマスを盛り上げるイベントの一環として、中心市街地の近隣商業施設や山口県立防府商工高校と連携して開催しました。今年はイルミネーションの一環として舞台演出で使用する自由自在に動かすことが出来るムービングライトを、子どもたちから大人の方まで一般の方に操作体験をして灯りの演出を楽しんでもらいました。

また、防府音楽祭のプレイベントとして、チェリスト田中雅弘、防府アスピラート児童合唱団“Fanfare”によるミニコンサートを市民スペースで開催し満席の来場者で賑わいました。

d 幸せますカメLOVE写真展

防府商工高校3年生ゼミ・ふるさとパワーアップ班の生徒たちと講師や地域の写真愛好家による「幸せ」を切り取った写真作品展を開催し来館者を楽しませました。

イ 共催事業

a 山口県立萩美術館・浦上記念館出張ワークショップ

山口県立萩美術館・浦上記念館のアウトリーチ事業として、同館の所蔵する貴重な浮世絵作品ややきもの作品に親しむ機会を提供し鑑賞のアプローチとなる各種ワークショップを実施し多くのファミリーで賑わいました。

(5) 美術育成事業（資料5頁～6頁参照）

市民から要望の多い幼児から楽しめる造形ワークショップ等、より多くの子どもたちを対象とした美術育成事業を開催しました。

ア 主催事業

a ゆめあーとひろば

子どもたちを対象にした造形ワークショップを年間を通して全6回開催し、七夕かざり、オリジナルキャンドル、樹脂粘土を使ったフェイク和菓子、小鼓に似せた打楽器、牛乳の紙パックを使って回転させると絵が変わるカライドサイクルの製作と、山口県立萩美術館から学芸員を招いて浮世絵風の多色刷り体験などを行い、子どもたちの創作意欲を掻き立てました。

b アスピラートで夏休み！2024

「やまぐち生まれの4人展」の出展作家を講師に迎え、ワークショップやトークショーを行い、幼児から大人の美術ファンまで多くの参加者で賑わいました。

イ 共催事業

a 瀬戸内デザイングランプリ2024入賞作品展

山口県出身で日本を代表するグラフィックデザイナー・新村則人らが主催する、県内の小中高生を対象としたデザインポスターの入賞作品展で9回目となる今回は「ふね」をテーマに作品が募集されました。

応募作品の中から選ばれた優秀者はアスピラート音楽ホールで盛大な表彰式を行いました。

(6) 発表・支援事業（資料7頁参照）

ア 主催事業

a フェスタアスピラート2025（音楽事業）

参加と運営を市民自らが行う例年のイベントで、総勢40団体が全館とルルサス防府を使ってノンジャンルのステージを披露しました。新規の参加希望も含め募集数を超える申し込みがあり、約2,000人の来場者で盛り上がりました。

b フェスタアスピラート2025（美術部門）

「エール」をテーマに写真作品を募集し、応募作品数122点の中から一般の方による来場者投票と市内写真関係者などによる審査によって大賞などを選出し表彰しました。

選ばれた作品はSNSや広報誌にも掲載して受賞作品をPRしました。

イ 共催事業

a 防府弦楽合奏団 第9回定期演奏会

映画楽曲やクラシック曲など多彩な演奏に加え、ファゴット奏者の近藤聡彦氏

を迎え演奏会を盛り上げました。

b 能章まつり

防府市出身の昭和の作曲家大村能章を顕彰するために毎年開催している歌謡祭は33回目を迎えました。歌自慢の市民の貴重な発表の場となっています。

c 防府吹奏楽団第21回定期演奏会

防府吹奏楽団のサウンドを遺憾なく発揮し、コンクール課題曲からユーミンメドレーなど様々な楽曲によるプログラムと防府吹奏楽団ならではの演出で来場者を楽しませました。

(7) その他の文化鑑賞事業 (資料7頁参照)

ア 主催事業

a 会員招待事業

小島よしおトークショー 雑草に学べ!

毎年恒例の会員招待事業で、今回は全国のショッピングセンターなどで開催されるイベントに引っ張りだこで1年以上先までスケジュールがいっぱいという、特に子どもたちに大人気の小島よしお氏を招き、雑草に学ぶ強みを伸ばして自分らしく生きるコツについてのお話を聞きました。トークだけでなく来場した子どもたちを舞台に上げて一緒にお笑いネタを披露するなど会場が一体となって盛り上がりました。

イ 共催事業

a 24時間テレビ47「愛は地球を救うのか？」

アスピラートでは「親子手作りFMラジオ教室」、「KRY山本気象予報士によるお天気ワークショップ」、「KRYキッズアナウンサー体験教室」に加えて「KRY國本泰功アナウンサーアコースティックライブ」、「松村邦弘&KRYアナウンサースペシャルトークショー」を開催し、全館が多くの来場者で賑わいました。

(8) 文化施設の管理運営 (資料8頁～9頁参照)

施設の設置目的に沿ってそれぞれの特徴を活かしながら、市民が利用しやすい施設となるよう、各施設が連携をとりながら利用促進を図りました。

ア 防府市公会堂

市民の福祉を増進し、生活文化の向上に資するとともに広く集会の場として利用に供するために設置された公会堂は、その目的にかなう管理運営に努めました。

a 施設整備

吸収式冷水機パラジウムセルの交換や冷却塔1・2号機のVベルト交換など空調設備関連のメンテナンスに努めました。

b 利用状況

令和6年度は、前年度にあった吹奏楽コンクール及びこれに関連した事前練習などでホールや楽屋等の利用が無かったことの影響で、全体の利用率は33%から29%に減少し、利用人数は40,017人となり、前年度より約6千人減少しました。

したがって、利用料金も13,400千円で前年度より約3,720千円の減少となりました。

今後は、ホールの利用はもとより、それ以外の施設についても利用の拡大を目指し、施設全体の幅広い活用につなげるよう一層努力してまいります。

イ 防府市地域交流センター

安全で誰もが利用しやすい施設となるように、以下のとおり管理運営を行いました。

a 施設整備

令和6年度は、1階市民スペースの雨漏り対策として屋上の防水工事、経年劣化で傷んだ2階展示ホールの展示壁の改修工事、さらに館内の照明器具のうち舞台照明用以外のものについてはLED化し、屋上の太陽光発電も稼働を始めました。

また、高齢の来館者の安全面を考え、屋外からの出入り口付近の段差を少なくしたり、階段の段差部分を塗装したり、音楽ホールの舞台袖の段差がある部分に手すりを取り付けるなどして、つまずきやふらつきによる転倒事故の発生を抑えるよう努めました。

しかしながら、開館から26年が経過し施設の老朽化が進んでおり、空調設備、音楽ホールの舞台機構・音響・照明設備の経年劣化による不具合が多数発生しており、エレベーターや自動扉なども含めて故障時の交換部品がない状況に陥っています。

これらの大規模修繕については高額な経費を要するため、まず利用者の安全確保を最優先に考えながら利便性を維持できるよう、所有者である防府市と協議しながら計画的な更新に努めてまいります。

b 利用状況

全館の利用率については、音楽ホールの客席電灯のLED照明化や展示ホールの壁改修並びにLED照明化による工事により一時貸出しを休止した期間がありました。それにもかかわらず前年度実績の65%を5ポイント上回る70%、利用人数は前年度より約7千人上回る8万2千人となり、利用料金収入も前年度より増加して23,621千円（前年度22,361千円）となりました。

各施設の利用率は、音楽ホールは前年度よりも2ポイント高い60%、展示ホールは前年度よりも10ポイント高い71%となりました。防府市文化協会が運営する市民ギャラリーは無料で展覧会を開催できるというメリットから地元の小さな団体や個人の発表の場の底上げの役割を果たしています。その反面、そのメリットから従来の展示ホールの利用者が市民ギャラリーにスライドする傾向にあります。将来的には市民ギャラリーと展示ホールのバランスがとれるように利用を促進してまいります。

その他の施設はリハーサル室が86%（前年度85%）、練習室が82%（前年度77%）となりました。

c その他

ソフト面については、防府市や防府商工会議所、防府観光コンベンション協会、近隣商店街やショッピングセンターなど地域社会との連携を強化し、まちの賑わいの創出に努めました。職場見学や校外学習、インターンシップの受け入れ、通常見ることができない会館の裏側を小さな子どもたちから年配の方までの幅広い年齢層の方に舞台音響や舞台照明の操作や効果を体験してもらうバックステージツアーの開催に積極的に取り込み、これを通じて芸術文化への興味を増してもらうことが出来ました。

また、調律師の協力の下、チェンバロ公開メンテナンスを行い、近くではめったに見ることができないチェンバロの分解点検作業を一般の方に見学、質問などをしてもらいました。珍しい試みであることから、その模様はテレビニュースでも放送されました。

2 科学及び科学技術に関する知識の普及・啓発を図る科学館運営事業

第四期指定管理期間4年目の令和6年度は、より多くの幅広い年齢層の方に当館にご来館いただくこと、同じテーマでも今までとはまた違った視点での科学の学びを提

供することの大きく2つの年度目標をもとに、昨年度に引き続き安心・安全に配慮しながら、当館の基本スタイルである体験型の展示・講座を積極的に実施して参りました。特に普段山口県内においてなかなか観覧・体験することのできないような科学に触れるきっかけとなる展示を広く市民に提供しました。

(1) 教育普及事業（資料10頁～11頁参照）

① 日常事業

当館の展示は、光と色の性質や身近な科学現象の原理などを紹介する2階常設展示室をはじめ、地域の自然コーナーや、宇宙と太陽の謎や生命の進化の歴史に触れることのできる回廊展示室などで構成されています。

「サイエンスショー」、「たのしい工作」、「太陽望遠鏡ガイドツアー」、「ソラルルの科学教室」の週末に実施する日常事業につきましては、毎週末に積極的に実施し、少しでも多くの来館者へ科学を学ぶ機会を提供しました。

なお、11月～2月の特別展「ポケモン化石博物館」会期中は、混雑対策のため、「ソラルルの科学教室」を除く日常事業の実施を中止しました。

ア たのしい工作

幼児以上を対象にした簡単な工作教室を、土・日・祝日、夏休み、冬休み、春休みに実施しました。

また、サイエンスアカデミー会期以外の夏休み期間中に「スライムをつくろう」と題した幼児・小学生向けの簡単工作を随時で行いました。計8種類の工作を実施し、4,180人の来館者が体験されました。

イ サイエンスショー

春休み期間及び土・日・祝日に、一般の来館者向けに1日2回実施しました。

また、平日でも社会見学の学校団体などの要望のあった団体向けにも実施しました。

ウ ソラルルの科学教室

防府の自然や星空の観察、ものづくり等を通して科学の奥深さを追及する内容の科学教室を実施しました。地学実験、化学実験、電子工作、自然観察、天体観察などの様々なテーマの教室を、継続教室と新規テーマの教室の講座数のバランスを考慮しながら、合計35講座を開催し、計625人の受講がありました。

また、大人の科学教室「電動糸のこ盤でつくるおひなさま」など、年齢層を大人に限定した講座の開催も昨年度に引き続き試みしました。

エ 太陽望遠鏡ガイドツアー

主に土・日・祝日の晴天時に、来館者向けに当館の西日本最大級の六連装式太陽望遠鏡を使った太陽の観察会を行いました。

また、公開日が雨天や曇天の場合は、天候に影響されない太陽観測衛星の一般公開映像を使って太陽に関する解説を行いました。

オ クイズラリー

館内での滞在時間が比較的長い社会見学の学校団体向けに、回廊展示室の壁面展示の学びが深まるようなクイズラリーを実施しました。

② 特別事業

子どもから大人までの幅広い年齢層に対して、わかりやすい展示方法や体験を通して、科学への興味・関心を高めることができる事業を実施して参りました。

また、企画展・特別展に加えて、常設期間中にスポット展も開催し、来館者に様々な分野の科学の学びの場を提供しました。

ア 特別展「カガクノミカタ展～自分だけの『フシギ』、見つけよう～」

本展は、さまざまな“科学の見方”を迫力ある特撮映像なども交えて紹介するNHK（Eテレ）の番組「カガクノミカタ」をもとに、様々な「ミカタ」を通して、実際にいろいろな「自分だけのふしぎ」を見つける体験ができる展示で構成された巡回展です。科学館としては全国初開催となります。

また、企画制作を行ったNHKエデュケーショナルと協力して、既存のコンテンツに加えて新たにコーナーを制作して展示構成し、本展でしか体験することのできない展示を目指しました。

これからの社会では、与えられた課題に受動的に取り組むだけでなく、自分自身で課題を見つけて進む力がより求められています。「ふしぎを見つける力」を育てるヒント満載の本展の展示を通して、大人から子どもまでが「わからないことの面白さ」も感じていただくことをねらいとして開催しました。

また、夏休みの自由研究のヒントとして活用していただくこともねらいとしました。

4月2日から7月7日までの会期で、11,040人の来館がありました。

イ 夏休み特別企画「サイエンスアカデミー2024」

主に幼児や小・中学生の科学的な好奇心を刺激し、科学やものづくりのおもしろさを知っていただくきっかけづくりと、夏休みの自由研究の一助になることを目的に、「サイエンスアカデミー2024」を開催しました。

平成25年度から開催している本事業も、令和6年度で11回目（令和2年度はコロナ対策のため中止）を迎えました。

本年度も、学校業務等の事情を鑑み、サイエンスFUNクラブ・ソラール科学教育指導員・大学・博物館・企業・元教員の方を中心に講師をお願いしました。

今年度は、事前予約のいらないAコース（4歳～中学3年生対象）を来館の多い盆時期の5日間に1日に2講座実施し、合計で26講座実施しました。特に昨年度需要の高かったBコース（小学3年生～小学6年生対象）は、昨年度の15講座から21講座に増やして実施しました。薬品や糸鋸盤などの取り扱い体験や、少し高度な科学を専門家から学べるCコース（小学5年生～中学3年生対象）は、会期の前半に集中させて11講座実施しました。さらに、会期中にそれぞれ期間限定で展示・随時体験のみの企業ブースを設け、2社にご協力いただきました。

7月26日から8月18日までの会期で、6,201人の来館がありました。

ウ スポット展「ソラールの夏休み2024」

夏休み期間に「ソラールの夏休み」と題して、「蛍光アート展示」、「電波であそぼう」、「デジタルひろば」などの地元企業・団体とタイアップした展示・講座・体験と、当館制作の身近な科学を使った謎解き体験コーナーや工作など、様々なテーマの展示や体験を組み合わせたスポット展として開催しました。

8月20日から9月1日までの会期で、1,550人の来館がありました。

エ 防府市小中学校科学作品展

防府市小・中学校教育研究会理科研修部との共催事業として、市内の小・中学生の夏休みの自由研究・工作から、校内選考で選ばれた優秀作品を毎年展示しています。

9月26日から9月29日までの会期で、1,848人の来館がありました。

オ 特別展「ポケモン化石博物館」

本展は株式会社ポケモンの協力のもと、国立科学博物館をはじめとする複数の博物館が協働し、「古生物とポケモン」をテーマに、観察や比較を通じて、古生物学を楽しく学ぶことができる展示として制作された巡回展です。2021年の三笠市立博物館を皮切りに日本各地を巡回し、当館で11館目、中国地方では、2021－2022年の島根県立三瓶自然館以来、2館目の開催となりました。

この展示は、人気ゲーム『ポケットモンスター』シリーズに登場する「カセキポケモン」と、私たちの世界で見つかる「化石・古生物」を見比べて、似ているところや異なっているところを発見し、古生物について楽しく学んでいただくこ

とを目的として開催しました。

また、防府会場独自の展示として、県内の各博物館や歴史民俗資料館、個人のご協力を得て、山口県で産出した各地質年代の多様で貴重な化石を展示して紹介しました。ご来館いただいた多くの方に、改めて山口県の魅力的な特色ある地質について知っていただくことができました。

会期中は、海外の方を含め県内外から平日も多くの方にご来館いただき、11月9日から2月24日までの会期で、61,778人の来館があり、平成10年度からの当館の開館以来、最多の来館者数となりました。

カ スポット展「農林業の知と技の拠点～知っトク！アグリフォレストアカデミー」
令和5年4月に防府市牟礼に新しくできた施設「山口県農林総合技術センター」（農林業の知と技の拠点）の取り組みについて、「電気放柵」や「せとみ」などの展示品15点と17点のパネルで紹介しました。

3月11日から3月30日までの会期で、1,108人の来館がありました。

(2) 情報収集保管事業（資料12頁参照）

当館の太陽望遠鏡による太陽観測映像を、デジタルデータとして保管に努めました。

(3) 啓発調査研究事業

科学教室や工作などの教材開発に取り組みました。

(4) 学校連携事業及び外部連携事業（資料12頁～16頁参照）

① 「第2回やまぐちU15科学アイデア作品・研究コンテスト」

県内唯一の科学館であるソラールが令和5年度に開館25周年を迎えたことを契機に、早期から科学に対するグローバルな視点を持たせるとともに、科学に関心のある子どもの裾野を拓げるため、アイデア作品・研究コンテストを開催しました。5/1～9/10の期間で、県内の科学部を含む中学生から、科学技術に関連した発明・工夫や、自然観察・研究考察に関する作品を募集し、59点の応募がありました。1次審査（優秀賞8点選定）、2次審査を経て、最優秀作品2点（柏木幸助大賞、ニコラ・テスラ大賞）を選定しました。最優秀賞受賞者には、副賞として、関東方面の博物館・科学館を巡る「科学の旅」を進呈しました。

② 学校連携事業

予め希望のあった社会見学の学校団体向けにサイエンスショーやクイズラリーを実施し、館内での充実した科学の学びができるよう努めました。

市内外の小中学校への出前講座として、理科の出前授業やクラブ活動、科学部、PTA活動、放課後子ども教室、家庭教育学級などの機会を利用して、青少年への科学の普及活動を積極的に行いました。昨年度に引き続き、中学生向けに「太陽・宇宙」をテーマにしたオンライン授業も実施しました。

また、市内外の幼稚園・保育園からの出前講座要請にもお応えしました。さらに、今年度は、昨今の小学校のクラブ活動の指導者不足の状況を受け、夏に防府市小学校教育研究会理科研修部と協力し、小学校科学クラブ指導者向け講座を実施しました。

館内実習として、博物館実習生を1人受け入れ、人材育成支援も行いました。

また、中学校の職場体験実習を8人、大学や高等学校のインターンシップを2人受け入れました。さらに、教職員の研修（中堅教諭等資質向上研修）として、市内外の小学校や高等学校から教職員を3人受け入れました。

③ 外部連携事業

防府市の教育委員会・環境政策課・観光振興課・公民館・保育協会・社会福祉協議会、市内外の児童館・図書館・PTA活動、山口大学等と連携して、家庭教育学級や一般向け講座、指導者向け講座など、それぞれが主催する活動の講師として、職員を派遣しました。

毎年恒例となった、地元コミュニティFMや国土交通省河川管理課、防府市との環境教育特別講座、防災教室などの連携事業に加えて、英雲荘・毛利氏庭園（日本博物館協会中国支部との共催）と連携した文化・歴史と自然科学の2分野コラボの講座も実施しました。

また、今年度は山口県農林総合技術センターと、自然分野専門の当館学芸員の共催企画として、屋外での自然観察講座を行いました。さらに、電池工業会が開催している出前講座を特別講座として積極的に活用・実施し、幅広い科学の学びの場を提供しました。

夏休み期間には、防府図書館との共催で、司書と学芸員双方の視点から読書感想文のヒントとなる展示を両館で行いました。

また、総務省電波適正利用推進員とアマチュア無線有志との共催で「電波」をテーマにした展示や講座の実施や、防府市教育委員会と山口県立防府商工高等学校に協力を得て「デジタル」をテーマにした展示も行いました。

（５）科学教育普及指導員派遣事業

例年特に要望の多い、市内の小中学校のクラブ活動や家庭教育学級、放課後子ども教室などへの出前講座の依頼に対応するため、必要な知識や技術をもった当館の

科学教育指導員（元専門職員）を派遣し、講座を実施しました。

また、本年度は年々要望の増えている保育園・幼稚園や市外の図書館・児童館などへの派遣もあり、計19回実施し、のべ400人の参加者に対して、実験・工作等の指導を通して、科学の不思議さや楽しさを伝えることができました。

（６）防府市少年少女発明クラブ

青少年の科学技術に対する夢と創造力を育み、創造性豊かな人間形成を図ることを目的に、当館を活動の場として開設された発明クラブの活動も23年目になりました。ボランティアグループ「サイエンスFUNクラブ」の皆様や専門知識をお持ちの方の多大なお力をいただき、充実した活動を行っています。

今年度は、基礎コースと応用コース（電子工作、化学実験）の2コースに分けて活動内容を構成し、5月から3月まで活動を行いました。

また、昨年度に引き続き、密集を避けて1講座1会場にするために活動スケジュールの調整等を行い、より安全、且つ充実した活動が提供できるよう工夫をして実施しました。

（７）科学施設の管理運営（資料17頁～18頁参照）

① 防府市青少年科学館

市民の科学及び科学技術に関する知識の普及及び啓発を図るとともに、創造性豊かな青少年を育成することを目的として設置された当施設は、その設置目的にかなうよう管理運営に努めました。

ア 施設整備・運営

当館は体験型の展示が多く、新型コロナウイルス感染症の流行期には使用制限を設けていましたが、昨年度より展示物の使用制限を撤廃し、より多くの来館者が展示をとおして、さまざまな体験ができるようにしました。あわせて今年度も新規の展示物を科学事業の一環として12種類を制作しました。

また、日常の対策としては、ご来館の皆様が安心して施設を利用できるよう、館内各所にアルコール消毒液を設置し、消毒清掃や換気、講座の人数制限など、安全な運営のための対策は継続して実施しました。

施設整備では、9月から1月にかけて館内の全照明のLED化工事を行い、利用者にとって快適な照明環境が整いました。

施設維持管理では、豪雨時には、窓からの浸水や雨漏りがありましたがその都度、修理補修に努めました。開館から26年が経過し空調設備、エレベーター制御設備などで経年劣化に伴う機器の不具合が発生し、その都度修繕を行いました。交換

部品が手に入らず機器の更新が必要な設備もあり、今後も防府市と情報を共有し、長寿命化に向けた対策の検討を次年度も継続していきます。

さらに本年度は防府市と協議しながら市が進めるカーボンニュートラルおよびキャリア教育の一環として企業展示のコーナーを新設しました。今後も、防府市や企業と連携した展示の充実につとめてまいります。

来館者への情報発信では、1階の情報コーナーについては、本年度も防府図書館の協力のもと蔵書を企画展に合わせたものを選択して紹介し、来館者が自由に閲覧できるようにしました。あわせて大型モニタを活用したデジタルサイネージも充実させ、講座の案内や実際の展示の様子等をリアルタイムで表示し柔軟な運用ができるように改善しました。

昨年、大幅にリニューアルしたホームページも、利用者に親しみやすく、必要な情報が得られるよう随時デザインと閲覧性の向上を図るとともに、講座の申し込みや各種お知らせについて適宜情報発信に努めました。来館者アンケートからもホームページやSNSでの情報収集が増加しており、今後も積極的に情報発信してまいります。

イ 利用状況（資料16頁～17頁参照）

令和6年度の入館者数は、前期はNHKエデュケーショナルとタイアップした「カガクノミカタ展」、後期は国立科学博物館が企画し株式会社ポケモン展示制作した特別展「ポケモン化石博物館」を共同主催で開催しました。特に「ポケモン化石博物館」は知名度も高いため国内外から6万人を超える来館者がありました。さらに、夏休み後半には新たに「ソラールの夏休み」としてプログラミングやデジタルツイン、アマチュア無線など体験型のスポット企画を実施するなど、各種企画の充実を図りました。

今年度はLED照明化や大型企画展の準備・撤収のため、開館日数は例年より約20日短い279日でしたが、入館者数はソラール開館以来の最高の入館者数87,290人を記録しました。

また、館外普及活動として、市内の小中学校や放課後子ども教室、公民館の家庭教育学級などの派遣講座に、延べ2,630人の参加がありました。これにより入館者及び館外参加者人数は総合計で89,920人となりました。

3 学校教育及び社会教育における視聴覚教育の振興に関する事業

学校教育及び社会教育における視聴覚教育の振興と学習支援を行うことを目的に、視聴覚教育事業を実施しました。

(1) 視聴覚機材や教材の計画的な充足（資料19頁参照）

防府市視聴覚ライブラリー運営委員会については、令和7年1月24日に開催し、令和5年度の事業報告及び決算、令和6年度の事業計画及び予算並びに令和7年度事業計画についてご審議いただき、特に、学校での情報機器の利用状況や今後の自主制作教材について様々なご意見をいただきました。

令和6年度の自主制作教材として、防府になじみのある季節ごとの様々な「花」をテーマに、1年をとおして「花めぐり」という視点で花に関するコンテンツを紹介した「ほうふ華めぐり」を制作しました。

また、研修講座や学校教育との連携のために、オンライン配信ができるよう機材の活用をしました。また、新しい映像撮影手段のため360度全球カメラと接写用カメラを購入し、利用ニーズの多い貸出用ポータブルアンプを購入しました。

(2) 視聴覚機材や教材の貸出管理（資料19頁～20頁参照）

学校での貸し出しは減少傾向にありましたが、今年度は社会教育団体を中心に視聴覚機材の貸出数は139件、貸出日数も延べ606日となり、令和5年度に比較して、大きく増加しました。

また、DVDなどの視聴覚教材の貸出は児童生徒一人1台のタブレット端末の普及により小中学校での利用は減ったものの、保育園や子ども会などの社会教育団体を中心に13件、延べ日数97日の利用がありました。

今後も市民の皆様の学習活動を支援できるような視聴覚機材や機器を揃えるとともに、引き続き市内小中学校や貸出対象となる団体へ向けたPRを行ってまいります。

(3) 防府市青少年科学館の多目的ホールでのビデオ上映（資料21頁参照）

科学館の多目的ホールでは、スポット展などに沿う教材や、科学により一層興味をもっていただけるような教材を選定し、上映しました。

また、企画展などで多目的ホールが使用できない時期にも、ロビーで大型テレビによる上映を行いました。

(4) 講習会の開催（資料21頁参照）

今年度は、天体教室等できれいな星を撮影したいというニーズに合わせ、スマートフォンやタブレットを利用した星景写真講習会を3月8日に開催しました。参加者が6名と少なかったものの講師の丁寧な指導のもと充実した講座となりました。今後も市民のニーズに合わせて、広報活動も工夫し、より多くの方が参加しやすい講習会を企画してまいります。

(5) ホームページの充実

現在、スマートフォンやタブレット等の普及により、いつでもどこでも誰でも自由に映像メディアを視聴することができるようになり、県内での視聴覚ライブラリーは3か所に減少しています。こうした時代背景の中でも、当館が保有する貴重な映像資料を有効活用できるよう自主制作の「地域教材ビデオ」や、ライブラリーが所有する教材の目録を、防府市視聴覚ライブラリーのホームページからより自由に閲覧できるよう、引き続き管理しました。

4 教育及び文化の情報拠点として生涯学習の支援を図る図書館運営事業

教育及び文化の情報拠点として、図書館資料・情報提供サービスの向上・強化を図るとともに、その資料・情報を活用できる生涯学習活動の場として、集会・文化活動の推進に努めました。

また、「第2次防府市図書館サービス振興基本計画」や「第3次防府市子ども読書活動推進計画」に基づき、図書館利用促進や読書活動推進のための施策に取り組みました。

※具体的な数値統計については、別紙資料22頁～25頁を参照。

(1) 誰もが等しく学べる、豊かな資料と機能を持つ図書館

① 市民の日常生活、学習活動に寄与する、質・量ともに充実した資料を持つ図書館

ア 資料収集業務

図書館資料の適正な選書・収集を「防府市立防府図書館資料収集要綱」に基づいて行い、質・量両面の充実に努めました。

地域資料、特に防府市関係資料については、市関係者関連資料・市の行政関連資料及び歴史・地誌・民俗資料等の収集を行い、防府図書館独自の特徴的なコレクションの形成に努めました。

イ 資料分類・目録整備業務

資料の受入れに際しては、受贈資料も含めて体系的に管理するため、迅速・正確な資料組織化・装備を行いました。資料の分類は日本十進分類法新訂10版に基づき適切な書架分類と配列を行い、資料受入れと同時に、日本目録規則に基づく事務用コンピュータ目録を作成し、利用者に分かりやすいOPAC（オンライン閲覧目録）検索画面等を提供しました。

ウ 書架管理・蔵書点検業務

月例整理日だけでなく、常に書架の整理整頓に努め、返却資料も迅速に処理しました。延滞資料については電話・葉書・Eメール等により定期的に返却を督促し、延滞資料に予約が入った場合は随時督促を行いました。

また、延滞者または督促連絡後14日以上予約付き資料延滞者等に対して、貸出停止とする内規を規定し、10月1日から適用しています。

10月8日(火)から10日(木)及び1月27日(月)から29日(水)までの間、全開架資料の蔵書点検を行いました。

エ 資料提供業務

窓口カウンターでの、資料の貸出及び返却業務、利用登録業務、予約・リクエスト受付業務等を、常に正確・迅速に行うよう努めました。

また、個人情報保護の観点から、自動貸出機利用奨励のための案内を行いました。

② 老若男女を問わず、様々な立場の人が、誰でも気軽に楽しく利用できる図書館

ア コンピュータシステム管理業務

コンピュータシステムの円滑な運用により、サービスの強化に努めました。Web上での資料検索・予約・貸出期間延長、利用者が自らの読書履歴を管理する読書手帳、利用者がWeb上で読みたい本や既に読んだ本を管理するMy本棚、読書目標や読書量を個人管理する読書マラソン等の機能の活用促進に努めました。

イ 情報発信(広報)業務

ホームページを適切に管理運営するため、随時情報を更新し、内容の整備と情報提供サービスの充実に努めました。

また、「ほうふ図書館だより」「ほうふとしょかんこどもしんぶん」「新刊紹介」(以上、月刊)「新しく入った赤ちゃん絵本」(年刊)等の広報紙を発行し、行事関係チラシ等をその都度作成するとともに、市広報「お知らせ ほうふ」(月刊)、防府市文化振興財団機関紙「イベントアイ」(隔月刊)、防府市メールサービス(随時)、「インスタグラム」(随時)、防府市文化振興財団「メールマガジン」(毎月)、及び地域情報誌「ほっぷ」(毎月)に図書館関係記事を掲載しました。

さらに、地域コミュニティFMラジオ「FMわっしょい」の『防府市からのお知らせ 情報モリモリ』に、図書館職員が毎月第2・4木曜日に定期出演するとともに、山口ケーブルビジョンのニュース番組「まちかどNEWS」(5月8日(水))に出演しました。

加えて、航空自衛隊防府北基地に所属する航空学生138名に対して、防府図書館及びそのサービスについて紹介を行いました（7月8日（月））。その結果、57名が図書館の利用カードを新規に作成しました。

2月15日（土）から28日（金）までの間、市広報政策課による「ほうふほっとライン」（防府図書館編）において、防府図書館の紹介を行いました。

ウ 図書館年報作成業務

「図書館年報（令和5年度）」及び「数字で見る防府図書館（令和5年度の統計より）」を5月31日（金）付で発行し、ホームページにも掲載しました。

エ サービス環境整備

図書館施設・設備・備品の点検と修繕を適切に実施し、恒常的で計画的な清掃業務を行うことにより、安全で快適に利用できる環境整備に努めました。

また、館内のLED照明工事を行いました。西側は、11月から12月にかけて休館日に実施しました。東側については、1月27日（月）から2月20日（木）の間、臨時休館して実施しました。

オ 安全対策・危機管理業務

施設管理会社・警備会社・警察等との連携を密にしながら、常に的確な状況把握と防犯管理に努め、施設管理会社とは毎月1回定期協議を行いました。安全管理上問題がある行為や迷惑行為に対しては、毅然たる態度で対応しました。特に、長時間の居座り及び大声による暴言等の行為を繰り返す利用者については、警備員や警察等の協力を得て対応しました（4月17日）。

また、AEDや防犯カメラの点検を毎日開館前に行い、施設の危機管理マニュアルに基づき、常に事故や犯罪等の発生に迅速・的確な対応が取れるよう備えました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、引き続き、受付カウンターにはビニールシート壁を設けるとともに、入口には体表検知カメラと足踏み式消毒スタンドを設置しました。

さらに、夜半に震度4の揺れを感知した際には、早朝その影響を確認したところ、児童書が数冊落下したのみでした。（4月18日）

台風接近に伴い、8月30日（金）は休館としました。

10月10日（木）には消防避難訓練を、2月17日（月）には防災訓練を図書館単独で行いました。

カ 利用マナー啓発業務

「マナーアップキャンペーン」（会期7月3日（水）～9月2日（月））を実施しました。その中で、小学生以下を対象とした「グッドマナーチャレンジ」では、139名が来館5回を達成しました。

③ 図書館から遠い所に住んでいる人にも、サービスできる図書館

ア 移動図書館車「わっしょい文庫」運行業務

市内全域サービスの充実を図るため、移動図書館車に常時約3,500冊の図書を積載し、6コース37ステーションを、2週間に1回の周期で巡回しました。ただし、台風接近に伴う荒天が予想された8月29日（木）午後及び30日（金）は運休としました。

また、10月21日（月）に行われた玉祖小学校2年生の生活科の授業に対して移動図書館車の臨時出張サービスを行いました。

イ 電子図書館運営業務

図書館への来館が困難な方や障害のある方等、幅広い利用を可能にするため、インターネットを通じていつでもどこでも電子書籍を利用できる電子図書館を管理運営しました。

3月1日（土）、郷土作家の音訳資料として、那須正幹作品4点を電子図書館に登録しました。ただし、これらについては、障害者等図書館サービス「ひなぎくネット」に登録された方のみ、利用が可能となります。

④ 調査・研究・読書相談などに、的確に対応できる図書館

ア レファレンス（調査研究相談・読書相談）業務

資料相談カウンターにおいて司書有資格者が、利用者への調査研究活動支援、資料利用案内、読書案内等のレファレンスサービスを行いました。こどもカウンターにおいても、資料利用案内・読書案内等の業務を行って、子どもの学習活動・読書活動を支援しました。

また、参加登録している、国立国会図書館の「図書館向けデジタル化資料送信サービス」閲覧業務の利用促進や「レファレンス協同データベース」の活用を図るとともに、他の図書館や市内外の関係機関等に照会したり、利用者をそれらの機関へ案内・紹介したりする、レフェラルサービスを行いました。

さらに、レファレンス事例集や新着図書案内・パスファインダー（テーマ別資料利用案内）等の充実に努めるとともに、レファレンス研修への参加や、利用者とのコミュニケーションを図るフロアワークの強化に努めました。

イ 図書館資料の複写サービス業務

利用者の求めに応じ、著作権法や防府市手数料条例に基づいた図書館資料の複写サービスを適正に実施しました。

(2) 地域の人々と手を携えて、豊かな交流の場を創る図書館

- ① 様々な図書館事業を利用者と協働して行い、学習交流の場、コミュニティセンターとしての機能を持つ図書館

ア ボランティア団体・生涯学習グループ等との協働推進業務

「防府図書館利用者・サークル連絡会活動発表会」において、4月25日（木）には図書館職員が「紫式部と平安文学」に関するブックトークを、9月26日（木）には「庶民も熱狂！江戸のブーム」についてのブックトークを行いました。

また、「第13回防府市子ども読書フェスティバル」を、実行委員会、ボランティア団体と協働で6月9日（日）に開催しました。

さらに、10月20日（日）には、実行委員会、ボランティア団体、多くの高校生ボランティア等の協力を得て「第34回防府図書館まつり」を開催しました。

- ② 学習ボランティアや、障害のある利用者のためのボランティアが、いきいきと楽しく活動できる図書館

ア ボランティア活動推進業務

ボランティア養成講座として、「日本十進法分類法（NDC）の基本知識」と題した講義を行いました。（8月22日（木））また、2回目は、「お話し会の運営とプログラム作り」の講義を実施しました。（11月14日（木））

(3) 生涯学習活動の拠点として、集会文化活動に力を入れ、地域の力を高める図書館

- ① 様々な図書館行事を積極的に行い、地域の文化発展に貢献する図書館

ア イベント・懇談会業務

- ・ トークイベント・ワークショップ

「第13回防府市子ども読書フェスティバル」（6月9日（日）に開催）において、絵本作家山本孝さんを講師に迎え、絵本の読み聞かせやワークショップを開催しました。

- ・ さんさんおはなし会

親子読書を推進するとともに、家族が一緒に過ごし、家庭の大切さを考えるきっかけとなるよう、毎月第3日曜日の家庭の日に、図書館職員によるおはなし会を開催しました。

- ・ 月いちキネマ

毎月1回、主に高齢者を対象とした懐かしの映画上映会を開催し、図書館職員による上映した映画に関する図書のブックトークを行いました。8月は、子ども向けの映画を、12月は障害者週間に合わせて「バリアフリー映画」を上映しました。

- ・ 大人のくらし塾

主に高齢者を対象とした暮らしに役立つ実用講座「大人のくらし塾」では、第1回目に「聞いて得する健康づくり講座～毎日を元気にいきいき暮らす！～」と題して、防府市役所高齢福祉課の保健師及び管理栄養士を講師に迎え、講義を受講、体操を実施しました。(9月5日(木))第2回目は、園芸療法士を迎えて「自然を感じる園芸講座～芝人形を作ろう～」を開催しました。(12月1日(日)、5日(木))

- ・ ビブリオバトル

小学生から大人まで参加できる本の紹介コミュニケーションゲーム「ビブリオバトル(知的書評合戦)」を11月10日(日)に開催しました。

- ・ 利用者懇談会

図書館サービスの向上を図るため、11月28日(木)、「防府図書館利用者懇談会」を開催しました。参加者から様々なご意見をいただきました。

- ・ クリスマスおはなし会

12月15日(日)、絵本の読み聞かせや手遊びに加え、クリスマス飾りの工作などの「クリスマスおはなし会」を開催しました。職員が扮装したサンタクロースやトナカイも登場し、好評を得ました。

- ・ 西日本図書館学会山口県支部研究発表会

12月22日(日)、防府図書館において「西日本図書館学会山口県支部研究発表会」が開催され、職員が「図書館オープンスペースを活用した音出しイベント事例」と題して事例発表を行いました。

イ 資料展示・展覧会業務

展示コーナー・中央カウンター前・こどもカウンター前での月例資料展示、及び新刊コーナー横・ヤング図書コーナー前でのミニ資料展示を、時宜に即したテーマを選定し定期的に行いました。

展示室では、常設展示「上山満之進と三哲文庫」を行いました。

また、ブラウジングコーナーにおいては、第13回防府市子ども読書フェスティバルの開催に合わせて、図書館利用サークル「布絵本「結う」」の作品展示(6月9日(日)～6月16日(日))を行いました。

さらに、9月の認知症月間に伴い、防府市高齢福祉課の企画で「認知症カフェ」のパネルやメッセージツリーの展示を行いました。（9月4日（水）～10月7日（月））

② 生涯学習グループ活動を奨励し、その育成を図る図書館

ア 生涯学習グループ活動奨励・施設利用等許可業務

生涯学習グループの活動拠点として図書館の活用を推進するため、研修室他、集会スペースの利用許可等の業務を適正に行い、機会・場・設備・資料等を各団体に提供しました。

（４）地域の歴史や文化を大切にするとともに、国際理解を深めていく図書館

① 地域（郷土）資料を、積極的に収集・整理・保存・提供する図書館

ア 地域（郷土）資料収集業務

地域資料、特に防府市関係資料については、市関係者関連資料・市の行政関連資料及び歴史・地誌・民俗資料等の収集を行い、防府図書館独自の特徴的なコレクションの形成に努めました。

また、令和5年度に複製、製本、登録を行った郷土紙芝居の貸し出しは、3月末現在、81回を数えています。

② 地域（郷土）の歴史や文化に係る事業を積極的に行う図書館

ア 上山満之進と三哲文庫顕彰業務

展示室において「上山満之進と三哲文庫」常設展示を行いました。

また、ブラウジングコーナー壁面において、上山満之進のパネル展示を行うと同時に、ゆかりのあった「上山満之進と台湾」の資料展示を行いました。（10月11日（金）～11月4日（月））

イ 防府史料刊行業務

「防府史料」第74集『周南先生文集 初編 自九至十』（山県周南著）を3月17日（月）付で発行しました。

③ 姉妹都市などの図書館との交流事業を推進し、国際理解を深めるための資料を積極的に収集・整理・保存・提供する図書館

ア 春川市立図書館との資料交換業務

大韓民国春川市立図書館との資料交換協定に基づき100冊程度の資料を相互に寄贈するため、選書し、発送しました。

また、資料提供協定締結20周年を記念して、特別展示（5月8日（水）～1月26日（日））を行いました。

(5) 様々な教育文化施設とのネットワークを進め、サービスする図書館

① 学校や公民館との連携を深め、支援事業・協力事業を推進する図書館

ア 学校図書館支援業務

防府市教育委員会や市立小中学校との連携を密にして、ネットワーク・システムを活用した学校支援図書貸出業務や、貸出文庫業務を行うとともに、学校司書の研修の機会や場の提供に努めました。

また、小学校で開催される選書会のための図書の貸出しなど、学校司書との連携に努めました。

イ 地域文庫・団体貸出業務

市内15ヶ所の公民館に配本所を設置し、200冊の図書を3か月に1回交換する地域文庫業務を行いました。

また、市内の施設・団体等の読書活動を支援する団体貸出業務として、貸出文庫業務を行うとともに、小学校留守家庭学級を対象に、貸出のための選書を職員が代行する選書サービスを行いました。

② 他の図書館や博物館・美術館との相互協力を推進する図書館

ア 他の図書館や文書館・博物館・美術館との連携業務

他の図書館との資料相互貸借・レファレンス協力・研修活動等を積極的に行うとともに、博物館や文書館等との連携にも努めました。

また、山頭火ふるさと館の第七回自由律俳句大会（応募期間5月1日（水）～10月31日（木））のための投句箱を図書館内に設置しました。

また、山頭火ふるさと館へ職員を講師派遣しました。（8月21日（水）1月15日（水））

さらに、山口県及び島根県の7市町の図書館による連携プロジェクトとして、「ナナシマチの図書館をめぐるスタンプラリー」（10月19日（土）～12月20日（金））を実施しました。この期間中、各図書館は講座やフェスティバルを開催しましたが、防府図書館では11月4日（月）にチェリストの田中雅弘氏を迎え、ブラウジングコーナーにおいて「チェロで聴く 物語が奏でる音楽」と題する音楽会を開催しました。参加者は155人でした。

イ 防府市文化振興財団内連携事業

・ 文化事業との連携

アスピラートにおける「ミニチュアライフ展MINIATURE LIFE展2—田中達也 見立ての世界—」（会期：4月5日（金）～5月12日（日））との

連携企画として、関連資料展示「田中達也 見立ての世界」（4月3日（水）～5月6日（月））を行いました。

また、アスピラート市民スペースにおいて、1月26日（日）から「ピーターと狼」の出張展示を行っています。

- ・ 科学事業との連携

夏休みの読書感想文の参考となる「読書感想文のヒント」を展示しました。これは、理科に関する課題図書3冊について、ソラールの学芸員と当館の司書が異なる視点でヒントを提示したものです。

また、11月1日（金）から23日（土）まで紅葉どんぐり便を受け付けました。

- ウ 行政との連携事業

9月の認知症月間にあわせて、防府市高齢福祉課と認知症関連の連携事業を行いました。認知症に関する本の展示や認知症カフェのパネル展示、さらに、エントランスでのもの忘れ相談会（9月19日（木）～21日（土））を行いました。

（6）子どもたちの読書活動を進めていく図書館

① 子ども読書活動推進を図るための研究と事業を、積極的に行う図書館

ア 子ども読書活動推進業務

- ・ 子ども図書館員

小学校4～6年生を対象とした「子ども図書館員」を7月29日（月）と8月5日（月）に開催しました。

- ・ 防府市図書館を使った調べる学習コンクール

防府市教育委員会と共催し、市内の小中学生を対象として、令和6年度防府市「図書館を使った調べる学習コンクール」（募集期間8月1日（木）～9月30日（月））の作品募集を行いました。応募総数は、小学生47作品、中学生18作品でした。10月31日（木）に開催された審査会の結果、小学生は金賞2作品、銅賞1作品、中学生は銀賞1作品、銅賞1作品でした。「上山満之進賞」は、周防国分寺を調べた小学5年生が受賞しました。

また、コンクール出品予定者を対象に、本の調べ方や研究のまとめ方等について助言する「チャレンジ！調べる学習～図書館「謎解き」イベントひゃっか王からの??！挑戦状??！～」を行いました（7月14日（日））

- ・ 読書感想文教室

「夏休み読書感想文教室」を7月27日（土）と7月28日（日）に実施しました。今年度から、参加者を先着順ではなく、抽選制で決定しました。

- ・ 職場体験・図書館見学等の奨励

職場体験等のインターンシップ、図書館見学等について積極的に受入れをし、子どもたちの図書館への理解促進と利用拡大に努めました。

- ・ 公共施設等での出前講座・出張イベント等の開催

宮市福祉センター（8月9日（金））、西須賀保育所（9月12日（木）、3月13日（木））に出張して、絵本の読み聞かせ等を実施しました。

- ② 子ども読書活動推進のためのボランティア活動を奨励し、その育成を図る図書館

- ア ボランティアとの連携・協働業務

「第13回防府市子ども読書フェスティバル」を実行委員会、ボランティア団体と協働で開催しました。

（7）障害者や高齢者に優しい図書館

- ① 障害者や高齢者が、気軽に楽しく利用できる図書館

- ア 障害者・高齢者への資料・情報提供サービス業務

行政やボランティア団体等と連携・協力し、点字・音声資料・大活字本・電子書籍等の整備に努めるとともに、郵送貸出・視覚障害者用音声付インターネット設備・電子図書館等のサービスを行いました。

また、障害者や高齢者に対し、図書館の各種サービスを伝達してもらうことを目途として、6月5日（水）令和6年6月定例民生委員児童委員協議会理事会において障害者サービス及び電子図書館の紹介を行いました。

- ② 視覚障害者や高齢者のための対面朗読、音訳図書製作、郵送貸出などのサービス

を積極的に行う図書館

- ア 対面朗読、音訳図書製作、郵送貸出等の業務

ボランティアと連携し、対面朗読サービス・音訳図書製作等の推進に努めるとともに、障害者への郵送貸出サービスや「ひなぎくネット」について、周知と利用促進に努めました。

- ③ 障害のある利用者のためのボランティア活動を奨励し、その育成を図る図書館

- ア 障害のある利用者のためのボランティア活動支援業務

障害のある利用者のためのボランティア活動を支援し、ボランティアによる施設・設備・資料等の活用促進に努めました。特に、9月以降、視覚に障害を持たれる人々へ市広報等を録音し届ける活動をしている「翠の会」が、図書館内障害者サービス室、録音室等を拠点に活動しています。

5 収益事業

チケットの受託販売や、科学館のショップ運営等により、公益目的事業の財源となる収入の確保を図りました（有料駐車場は営業休止）。これらの運営に当たっては、施設利用者への更なるサービス向上につながるよう努めました。

（1）文化施設の管理運営

大ホールでの式典や講演会、ホワイエや会議室での展示即売会や研修会など、公益目的以外の利用についても積極的に貸与し、施設の有効利用を図るとともに、地域振興の拠点となるよう努めました。さらに、毎回実施している利用者アンケートを参考にサービスの向上や職員の意識の醸成を図っています。

また、他市等の施設で開催されるイベントのチケットを含めたチケットの受託販売も積極的に行い、お客様の利便性を高めるとともに、収入の確保にも努めました。

（2）有料駐車場の管理運営

営業休止中（イベント時に無料開放）

（3）ミュージアムショップの運営

ミュージアムショップでは、科学を身近に感じる商品や企画展の関連商品をタイムリーに販売し、科学館の魅力向上や電子決済の導入など利用者の利便性を図るとともに、財源の確保につなげました。今後も科学館での体験をより豊かにするようなショップの運営に努めています。

Ⅲ 理事会、評議員会

1 理事会

(1) 第1回理事会

開催年月日	令和6年5月13日(月)
開催場所	三友サルビアホール 4号室
決議事項	①令和5年度事業報告及び決算について ②規則の改正について ③令和6年度第1回評議員会(定時評議員会)の招集について

(2) 第2回理事会

開催年月日	令和7年2月13日(木)
開催場所	三友サルビアホール 4号室
決議事項	④令和7年度事業計画書及び収支予算書等について ⑤規程等の制定及び改正について ⑥令和6年度第2回評議員会の招集について

2 評議員会

(1) 第1回評議員会

開催年月日	令和6年5月29日(水)
開催場所	三友サルビアホール 4号室
決議事項	①令和5年度事業報告及び決算について

(2) 第2回評議員会

開催年月日	令和7年2月28日(金)
開催場所	三友サルビアホール 4号室
決議事項	②令和7年度事業計画書及び収支予算書等について

事業報告の附属明細書

令和6年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和7年5月

公益財団法人 防府市文化振興財団